

第13回 留学生による 日本語作文 コンクール

入選作発表
2006年9月



主催・大阪鶴見ロータリークラブ
協賛・大阪日本語教育センター

大阪鶴見ロータリークラブ 国際交流基金について

1989年2月、当クラブは、RI第2660地区のインターシティ・ゼネラル・フォーラム（IGF）第6組の主催クラブとなり、そのテーマに「留学生問題を考える」を選定。大阪市立大学前学長木村英一氏にコーディネーターをお願いし、関西国際学友会専務理事浦野吉太郎、大阪市立大学教授佐藤全弘の両氏を講師として「留学生をめぐる現場から」という演題の基調講演をして頂いた。

またそれに引き続き、大阪大学、大阪市立大学、大阪府立大学、神戸大学、関西大学、関西国際学友会日本語学校よりの男女計35名の留学生

を囲むバズセッションを13クラブ約300人のロータリアンの参加で開催して、留学生に関する認識を深めることができた。

このIFGが契機となり、同年7月の創立5周年記念事業の一環として当クラブ独自の国際交流基金の設立が決議され、クラブ内で募金を開始した。基金の事業目的は「外国人に対する日本語教育の振興による国際的相互理解の推進」と定められた。

創立10周年を迎えた1994年、基金の利息と年度内の募金を原資に、上記事業目的に添って運営を開始したものである。

大阪日本語教育センターの留学生による 日本語作文コンクール

当クラブは例年、鶴見区民まつりに「国際交流コーナー」で参加、地域社会とのふれあいを深めている。この催しには、第2660地区への青少年交換学生とともに大阪日本語教育センターの留学生（旧関西国際学友会日本語学校）も招待されている。

同センターと当クラブは、上記IGFを含めて特別にご縁があり、国際交流基金運営の最初の事業として、同センターの学生を対象に日本語作文コンクールを開催することになった。

このコンクールは1994年を第1回とする5年間の継続事業として始まり、1998年に5年間延長された。第

10回を終えるにあたり継続の是非が議論されたが、コンクールの方法を一部見直した上で引き続き実施することとなった。

この13年間に日本語作文コンクールに応募された作品数の年次推移は、次ページの表と棒グラフに示す通りであり、第10回からの応募作品の減少は、生徒数の減少によるものである。

このコンクールへの応募資格は、大阪日本語教育センターの留学生（4月末日現在）で、同センターのスピーチコンテストに準じて初級、中級、上級とクラス分けをし、日本語習得

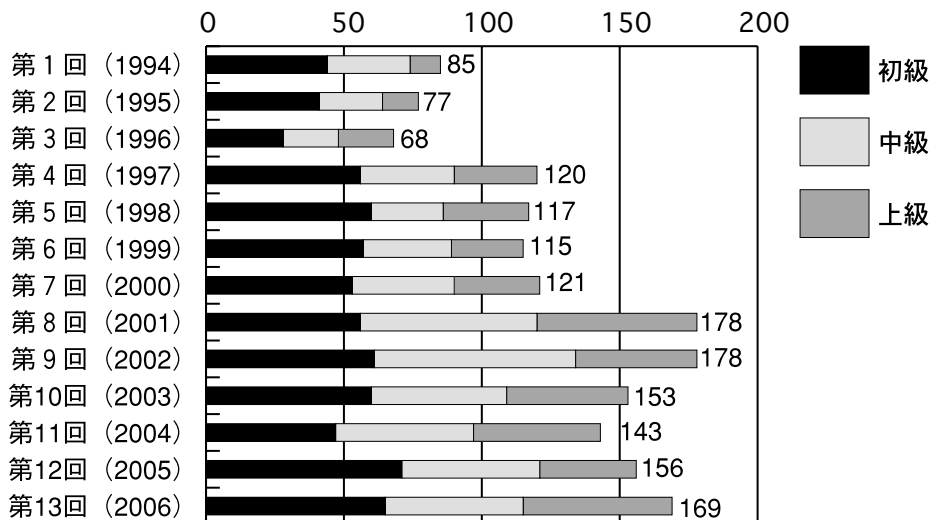
年限によるハンディキャップの解消を狙っている。表彰の内容は各級とも最優秀賞1名5万円、優秀賞2名2万円、審査員特別賞1名2万円となる。審査員特別賞は、非漢字国出身者に贈られる努力賞であり該当する作品があれば選出される。なお、

選に漏れた応募者全員に参加賞が贈呈される。

作文のテーマは自由であるが、原稿は自作、かつ自筆・未発表のものに限られ、クラブ会報等への掲載の権利は当クラブが有している。

大阪日本語教育センター 留学生参加 日本語作文コンクール応募者数の推移

	初 級	中 級	上 級	総 数
第1回 (1994)	44	30	11	85
第2回 (1995)	41	23	13	77
第3回 (1996)	28	20	20	68
第4回 (1997)	56	34	30	120
第5回 (1998)	60	26	31	117
第6回 (1999)	57	32	26	115
第7回 (2000)	53	37	31	121
第8回 (2001)	56	64	58	178
第9回 (2002)	61	73	44	178
第10回 (2003)	60	49	44	153
第11回 (2004)	47	50	46	143
第12回 (2005)	71	50	35	156
第13回 (2006)	65	50	54	169



大阪鶴見ロータリークラブ 国際交流基金運営委員会 (2006年7月1日)

第13回作文コンクール入賞者

初級

最優秀賞

張 敏 (中国)
チョウ ビン
「経済の発展及び問題」

優秀賞

李 槍訓 (韓国)
リ チャンフン
「お風呂屋さん」

GALIDO, RICHARD JOMPILLA
(フィリピン)
ガリド リチャード ホムピリア
「日本語の勉強」

中級

最優秀賞

宋 宇 (中国)
ソウ ウ
「日本に来て、
失ってよかったもの？」

優秀賞

PHIASOUKKHA THANVA
(ラオス)
ピアスッカ タンワー
「日本人と時間」

鄭 英民 (韓国)
チョン ヨンミン
「外国人の目に映った日本」

上級

最優秀賞

呉 竺蓉 (台湾)
ゴ チュヨウ
「ささやいている手」

優秀賞

刘 程 (中国)
リュウ テイ
「プリズムのような留学生活」

呉 菊华 (中国)
ゴ キクカ
「海の如く深き愛に」



初級参加者 65名

張 嘉盛 (台湾)

張 立舟 (中国)

刘 瑞雪 (中国)

燕 燕 (中国)

張 敏 (中国)

王 微微 (中国)

LONG SOKNANG (カンボジア)

朴 熙潤 (韓国)

舒 麟雅 (中国)

張 维馨 (中国)

尹 嬋敏 (中国)

刘 熠 (中国)

陳 昊 (中国)

吳 宜 (中国)

CHOO DANIEL (ブルネイ)

TUMUR SOLONGO (モンゴル)

LUO MEILIAN (フィジー)

MIYAMOTO DUSTIN TETSUYA (アメリカ)

SUZUKI KOJI ALEXANDRE OLIVEIRA (ブラジル)

ATETO ERICK OMONDI (ケニア)

SAJJA, MANEESH KARTHIK (インド)

RAI, SRIJANA (ブータン)

MAGBALOT, MARVIN TIMBAL (フィリピン)

GALIDO, RICHARD JOMPILLA (フィリピン)

SALA, LENUANUA JOHNWILLIAM (サモア)

MANEGA MOALE (パプアニューギニア)

BOKELEMA, STELLA TUENE (ソロモン諸島)

TOKINTEKAI BAKAITI (キリバス)

FLORENTIN SOSA, VICTOR MANUEL (パラグアイ)

AYEBAZIBWE HERBERT BEN (ウガンダ)

MACHARIA, MARTIN MWANGI (ケニア)

KOUAKOU NANAN MARC THIERRY (コートジボアール)

GUEYE NDEYE MAGUETTE (セネガル)

MAKANGE FRANK HERIEL (タンザニア)

SARKI, KENEILOE GIMBIYA (南アフリカ)

張 茵 (中国)

岑 詠珊 (香港)

HO STEVEN YEN TING (カナダ)

葉 知青 (台湾)

胡 展誠 (台湾)

董 雪 (中国)

陳 小玲 (中国)

李 ミドゥン (韓国)

張 珏华 (中国)

李 明峻 (中国)

張 憶純 (台湾)

陳 維仁 (台湾)

張 芫綾 (台湾)

唐 晓芳 (中国)

陳 雅莉 (台湾)

金 成炫 (韓国)

李 明霞 (中国)

邓 吉昌 (中国)

俞 杰 (中国)

林 淑玲 (台湾)

祝 鶴 (中国)

A-KUL PHANTHARAK (タイ)

兰 岚 (中国)

JANZER MICHAEL-ARTHUR (ドイツ)

赵 博楠 (中国)

仲 建豪 (台湾)

高 倚 (中国)

謝 淑燕 (台湾)

李 槍訓 (韓国)

楊 冬冬 (中国)

中級参加者 50名

陳 沛榆 (台湾)

張 熙艷 (台湾)

宋 宇 (中国)

管 越 (中国)

何 玉琴 (中国)

郭 俊博 (中国)

李 娥英 (韓国)

陈 嘉初 (中国)

金 康賢 (韓国)

史 环 (中国)

邹 飞 (中国)

蒋 婉婷 (中国)

邢 晓文 (中国)

江 妮 (中国)

刘 托 (中国)

雷 琿 (中国)

曲 杰 (中国)

李 雪 (中国)

PATTY AYU ARSANDHI (インドネシア)

FREDY (インドネシア)

PHIASOUKKHA THANVA (ラオス)

陳 芷矜 (台湾)

张 旭阳 (中国)

吕 航 (中国)

张 倩 (中国)

龙 雨 (中国)

杨 晓娟 (中国)

丁 文 (中国)

DANESHVARHOSSEINI SOMAYEH (イラン)

INTAN RAHMAWATI (インドネシア)

KURNIAWAN LISANDI (インドネシア)

金 判星 (韓国)

VILLANUEVA RONABELLE JEAH ADRALES (フィリピン)

ENKHTAIVAN BATNYAM (モンゴル)

ZANARDI BIANCA PEREIRA (ブラジル)

PAKSEE ARANYIKA (タイ)

李 忠祐 (台湾)

吳 信頤 (台湾)

陳 正峰 (台湾)

楊 嘉欣 (台湾)

李 佩珊 (台湾)

李 吉雨 (韓国)

王 晓宇 (中国)

譚 玉莹 (中国)

BEDELL KYLE ALAN (アメリカ)

徐 丽娜 (中国)

葉 岱姿 (台湾)

張 丽娜 (中国)

鄭 英民 (韓国)

周 漢明 (香港)

上級参加者 54名

谢 圆圆 (中国)
宋 琦 (中国)
李 泰俊 (韓国)
刘 博 (中国)
陈 明 (中国)
原 美俏 (中国)
王 耀敏 (中国)
刘 希 (中国)
蒲 军 (中国)
尤 薇佳 (中国)
苗 宇翔 (中国)
田 安娜 (中国)
张 茜 (中国)
海 怡雯 (中国)
陈 焯 (中国)
邹 晨燕 (中国)
ONG SIEW YEE (マレーシア)
陸 富豪 (香港)
杨 笑天 (中国)
贾 小雪 (中国)
王 郁菁 (台湾)
汤 艳华 (中国)
赵 鑫 (中国)
陈 莉丽 (中国)
车 晓毅 (中国)
袁 丽华 (中国)
乐 元斌 (中国)

王 小丽 (中国)
王 金石 (中国)
刘 程 (中国)
苏 娟 (中国)
宋 佳 (中国)
王 盈婷 (台湾)
陳 美鎔 (台湾)
陳 佩儀 (台湾)
杨 昀 (中国)
金 寶景 (韓国)
贺 照娜 (中国)
崔 弘碩 (韓国)
呉 竺蓉 (台湾)
范 荣丹 (中国)
李 娜 (中国)
孙 垚 (中国)
吉川 真由美 (日本)
ELOMATA OTSHUDI ANICET (コンゴ)
张 晶晶 (中国)
招 蕾 (中国)
王 丽娜 (中国)
顾 健 (中国)
呉 菊华 (中国)
HERRMANN CHERYL (インドネシア)
姜 枫 (中国)
刘 柏超 (中国)
郭 雨 (中国)

経済の発展及び問題

張 敏 (中国) チョウ ビン

最優秀賞 (初級)

経済が発展するとともに、色々な問題が起こった。急速な都市化のため、都市環境は非常に悪化し、人口過密などによって、様々な問題が生じた。第二次世界大戦後に、殆の植民地が独立し、経済が発展し国民の生活も豊かになった。しかし、発展途上国の工業化と人口の増加により、自然環境や環境汚染が悪化した。

一九七二年に、第一回国際環境会議が開催され、多くの国が参加した。それ以来、地球環境会議は定期的に続けられた。其々の国が抱える環境問題を全人類の問題として、考えなければならぬ。私達を取り巻く環境問題には、フロンガスによるオゾン層の破壊や二酸化炭素などの温室効果ガスが引き起こす地球の温暖化、更には、酸性雨、砂漠化。そして、森林が消え、土地が少なくなる問題などがある。どれ一つ取り上げてみても自国だけで解決できるものはない。これらの問題を引き起こしている原因である環境破壊は非常な速さで進んでいる。早急に効果的な政策を立てなければ、この深刻な状況はどんどん広がり続けていく。日本は

世界で環境保護の一番良い国だ。全世界で高く評価された。これは日本国民の進んだ意識、教育の普及及び環境政策が正しいということである。中国でも、個人の意識も少しずつではあるが変わり始めた。人々が資源のリサイクルを考え、排気ガスを減らすなど始めた。手遅れにならないうちに何か手を打つことが考える。現在の状況を急速に変えることはできないかもしれない。だから、環境問題の解決は、今同じ時代に生きる人間のためだけではなく、次の世代の人達、未来の子供達に対する私達の責任でもある。その為、私の留学の最大目標は大学で環境政策、管理などを勉強することだ。そして、中国に戻って、破壊された環境を救いたい。

お風呂屋さん

李 槍訓(韓国) リチャンフン

優秀賞 (初級)

日本へ来て初めてお風呂屋さんに行った話だ。お風呂の文化は韓国に比べて特別な差違はないと思っていたので心配せず、友達とお風呂屋さんに向かった。内部構造は韓国と同じだった。だが、中にはせっけんがなかった。僕らは何も持って行かなかったので隣の人に借りるしかなかった。日本人は垢を落とさないと知っていたが、実際に見るとちょっとおかしかった。もちろん逆から見たら同じだろう。また、電気が流れているお湯があったが怖いので入れなかった。そのようにお風呂を終わってからロビーへ出てみるとタオルがなかった。やむをえずに人々の顔色をうかがいながら扇風機に体を任せた。その時、けっこうびっくりすることが起こった。男湯におばさんが入って来て掃除をはじめるとはなにか！そんなに年上でもなさそうだった。たぶん四十五才ぐらい？僕の素肌を見られてしまった。体を隠す時間もぜんぜんなかった。ほかの人々は平気だったが僕らは本当に慌てた。韓国でもトイレはおばさんが掃除するが男湯に入るのは夢にも想

像できないことだ。

これは男女不平等ではないか！それなら女湯はおじさんが掃除しても大丈夫かな。機会があったら僕も一度ぐらいは掃除してみたい。掃除時間は長ければ長いほどいいと思う。

終わりに、男にも恥かしさがある。それで次にお風呂さんに行くのが怖くなった。まだ、そのおばさんの微笑が忘れられない。

日本語の勉強

GALIDO, RICHARD JOMPILLA (フィリピン) ガリドリチャード ホムピリア
優秀賞 (初級)

「日本語の勉強はむずかしいですよ。」わたしが会った多くの人々は日本語について、そうコメントしました。

わたしのそばは言いました。「さいしょに、日本語の勉強は悪い映画を見ているようです。」

それはおもしろいけれど、こわい映画なので、あなたは国へ帰りたくなるでしょう。あなたのまわりの日本人はエイリアンのようにあなたのわからないことばをたくさん言います。そして、日本人はあなたのことばがぜんぜんわかりません。あなたはこわくなって日本社会からにげ出したくなるでしょう。

また、わたしの友人は言いました。「日本語の勉強はローラーコースターにのっているようです。」まず、あなたは大きなゆうきがひつようです。そして、その後でめまいがするようになります。日本の人々が早く話すと、きっとあなたはめまいがしますよ。

また、ある人は言いました。「日本語の勉強はあなたの大好きなゲームをやっているようです。」かつ時もあれば、まける時もあります。全

力をつくしても、思わなかったけっかになることもあります。

やきゅうでは、どんなに強いボールをピッチャーがなげてくるのか、バッターにはうつまでわかりません。うまくうつことができるかもしれません。三しんするかもしれません。だから、プレーヤーは毎日いっしょうけんめいれんしゅうするのです。日本語を勉強してもまだまだ知しきがたりないと感じるでしょう。

わたしが言いたいことは、ゲームにかつても、まけてもいいゲームをしているかぎり、それは間だいではないということです。日本語の勉強も同じです。うまくいく時も、いかない時もありますが、いい先生といいい友だちがいればがんばれます。それが一番大切なことだとわたしは思います。

日本に来て、失ってよかったもの？

宋 宇 (中国) ソウ ウ

最優秀賞 (中級)

僕の留学生活はもうすぐ9ヶ月目になります。最初のころ、本当に日本人の親しみ深さと街の美しさに驚きましたが「日本に来てよかった」とは全く思いませんでした。

日本に留学することを決心した僕は、中国の激しい受験競争から抜けでることができ、非常に「充実した」高校生活を送れました。友達と一緒に遊んだり、家族と毎日美味しいものを食べたり、なかなか楽しかったです。

しかし、日本に来ると、僕の生活は完全に変わってしまいました。物価が高いので、以前のように好き勝手に遊ぶことも、食事をすることもできなくなりました。姉は毎日学校とバイトで忙しく、僕のことを考えてくれる余裕もありませんでした。学校の中でもクラスメートは自分のことで忙しく、なんとなく「冷たい」感じがしました。そんな時、中国にいる友達のチャットから、大学生活をととても楽しんでいる様子がわかりました。僕は内心悔しくてなりませんでした。高校の時苦しくても受験をし、目指す大学に入学していたら、

きっと幸せになっていたかもしれません。親の愛情、また友情をも失ってしまったのではないかと思いました。

そんなことを感じている時期に、すごい事故を起こしてしまいました。坂道でかなり速いスピードを出し、むこうから来た車を避けようとして戸建の家の壁にぶつかってしまったのです。一瞬意識がなくなりました。どれくらい時間がたったでしょうか。意識が戻った時は頭も顔も血だらけの状態でした。携帯電話はこわれて、どこにも連絡が取れなくなりました。けがをして電話がない。言葉が通じない。タクシーの呼び方もわからない。どうすれば病院に行けるでしょうか？このまま血が止まらなければ僕は死ぬのかもしれないという不安でいっぱいでした。

持っていたハンカチで血をふき、痛みをこらえながら、姉のバイト先に向かってひたすら歩いていました。そしてようやく店に着きました。店長は僕の状況を見るや否や、何も言わずに店を閉めて、病院まで連れて行ってくれました。そこですぐに手

術を受けることになったのです。

僕はけがのため静養する必要がありました。それで姉も休みを取りました。毎日僕の勉強を手伝ってくれたり、料理を作ってくれたり病院での検査にまで毎回連れていってくれたりしました。そして、そんなある日のこと、学校から一通の郵便物が届きました。その中には勉強用のプリントや先生とクラスメートの「お大事に」と書いてある手紙が入っていました。皆のやさしい気持ちが僕の心の中に伝わってきました。

そんな皆の応援のおかげで僕は思ったより早く回復しました。けがをしている間の皆のそれぞれの言葉に感動しました。その時点で僕の考えは変わりました。「日本に来てよかった。皆と知りあって最高。いろんなことを経験してよかった。」と。

今の僕は皆の期待にこたえるために、百パーセントの力をこめて勉強しなければなりません。やっと日本に来て、失ってよかったものは何か分かるようになりました。それは、子供のころからのわがままな心と怠惰な生活だったということが。

日本人と時間

PHIASOUKKHA THANVA (ラオス) ピアスッカ タンワー
優秀賞 (中級)

私が日本に来て、約三ヶ月になりました。私は徐々に日本の生活に慣れ、また毎日勉強を頑張っています。日本での生活の中で、私は故郷のラオスにいる時と比べて、生活の中に違いがあることに気が付きました。それは時間です。

というのも、私は日本に来てから、時計を見ることが多くなったからです。私はラオスにいる時は、意識をして時計を見ることはあまりなかったのですが、日本で生活をはじめてから、私は自然と時計を見るようになりました。

私はテレビで、毎朝、日本人が時計を見ながら行動し、学校や仕事に向かうところを見えています。日本では、いろいろのところに時計が多くかけてあるのが便利です。そこから私は日本の人々が時間を中心に生活していると思いました。私がなぜそう思ったかという、ラオスでも人々は時間が大切ですが日本ではもっと大切だと思います。ラオスの人々は時間を気にせずに生活しているからです。例えば、バス。ラオスではバスが時間通りに来ることはあまりな

く、多くの場合、バスは遅れて来ます。時々遅れて来るので、私達は急ぐ必要がなく、ゆっくりと時間を過ごしてきました。しかし日本では、時間に追われて生活をしているような気がします。人々が時間に操られて生活をしているように感じました。その反面、時間通りにバスや電車が来ることに私はおどろきました。

私が日本に来て三ヶ月ですが、私は日本で生活をする時は、時計は現代の生活になくてはならない物だと思いました。もし時計が無ければ、自分が乗りたいバスや電車に乗れなくなり、また遊びに行ったところから帰れなくなってしまいます。ですから、私はいつも時計を持ち歩くようにしています。

さらに私から見て、日本人はいつもとても忙しそうに行動していると思います。例えば私が買い物に行った時とか、電車にのりかえる時とか、日本の人々はラオスの人々に比べて、歩くスピードも速いと感じました。では、なぜ、日本人は速く歩くのでしょうか。

それは、日本人は時間を大切にす

る民族だからと、私は考えました。これは私の先輩から聞いたことなのですが、もし日本の人々が時間を大切にしていなければ、今の日本はなかったということです。日本人が時間を大切にしていなければ、バスや電車が時間通りに動くことはなく、経済も発展していなかったでしょう。つまり、今のような快適な暮らしは作られていなかったということです。そして、今のような暮らしが無ければ、私たち留学生は日本に留学していなかったかもしれません。私にとって、日本は憧れの国であり、夢をかなえてくれる国です。日本の人々は忙しそうに行動していますが、それは日本独特の風習だと思います。世界中で日本人ほど一日中忙しく行動している人は外にはいないのではないかと思います。私は彼らを見て自分をもって成長させたいと思いました。もし私が成長しなければ、私は周りに取り残されてしまい、日本で高いレベルの勉強をしたいという自分の夢をかなえられないと思うからです。私は今、自分の夢をかなえるために日本語を勉強しています。その中に日本での生活に慣れるということも含まれています。私は日本の文化や歴史を知ったうえで、高いレベルの勉強をしていき、最後には日本で働けたらいいなあと思います。

過ぎ去った時間は取り戻すことができないので時間を大切にしましょう。

外国人の目に映った日本

鄭 英民 (韓国) チョン ヨンミン

優秀賞 (中級)

私は日本に来てまだ一年足らずです。学校と家の往復の単調な生活だけです。いろんな日本人を見て感じたことは日本人は本当に親切だし信じられるということです。

ある日、私は米を買いに行きました。でも買わずに家に帰りました。というのは私がスーパーで米を持ってレジでお金を払おうとしていたとき係員に明日買うことをすすめられたからです。係員の話によると明日から米の割引があるそうです。私はなぜその人がそんなことを言うのか理解できませんでした。その時売った方が面倒にならないし店にも利益があるのじゃないかと思いました。その時が日本へ来て初めてびっくりしたことでしたが、その後ももっとびっくりすることはたくさんありました。

私は腰が痛くて近くの医院にはりを打ちに行きました。そこで何か書いてある紙をもらったのです。その紙に書いてあったのはその医院以外の病院についての詳しい説明でした。どうしてこんな紙を配るのか。でも本当にいいことだと思いました。患

者さんが急に痛くなった時やもしここに来て治らない時、外のところにも行ってみるように紙を配っているのです。そのために私は近くにある外の病院もわかったので便利になりました。

また、学校の友達が財布を忘れてしまった時のことです。私はその財布をさがすのは難しいと思ったのですが、そのつぎの日にある駅から電話がかかってきて見つかりました。いっそうびっくりしたことは各種証明書やクレジットカードだけでなくお金もそっくりそのまま戻ってきたことです。本当に本当に珍しくて良かったと思っていた時先生が日本ではよくものが戻ってくると教えてくれました。私の国ではそんなことはないのです。さがそうとも思いません。むしろ私の国ではわすれ物を見つけてあげた人が忘れてしまった人にお金を要求することもしばしばあるので私なら知らない人の忘れ物を届けてあげたかなと考えました。忘れ物をわざわざ届けてあげるのは面倒なのにやっぱり日本人だと思いました。

また、日本人は時間をよく守ると

思います。私が日本へ来たばかりの時、日本語がぜんぜんできませんでした。日本語ができる知り合いにおねがいしてある商品を注文しました。商品は私が指定した時に送ってもらうことになっていたのですが、私の国の宅配はあまり時間を守らないので日本でもそうだと思って期待せずに待っていました。しかしその時間になったら家のベルがなって日本語ができなくてももらうことができたので本当に嬉しかったです。それから宅配してもらった時、ちょうど決めた時間にきたのでびっくりするしかなかったです。なぜそんなことができるのかというと日本人は約束を大切に考えているからなのでしょう。このことでもっと日本人のことが信じられるようになりました。

また、私の国で日本人が交通規則をよく守るというのをテレビで見ることがありました。実際に横断歩道を渡る人が車が来なくても赤信号を守っているし車も人が通らなくても赤信号を守るのをたびたび見て感心させられました。

このように外国人の目に映った日本人は親切だし日本は信用と信頼の国だと思いますからこれから日本に来る外国人は心配はいりません。何かをなくしてはしまっても何かを買っても何かをしようと思っても日本人

は間違いありません。

でも、日本人にもそうじゃない人もいるので気をつけないといけません。

これからも日本が日本の信用を落とさずにもっともっとよくなったらいいと思っています。

ささやいている手

呉 竺蓉 (台湾)ゴ チュヨウ

最優秀賞 (上級)

「君の手がささやいている」というドラマを見たことがある。手で話せる方法が手話である。

手話はその名の示すとおり、手で話すというものだ。耳が聞こえない人は、言葉を学びにくい。しかし、言語のかわりに手話を使い、外界と交流ができるようになった。

私は大学で、手話クラブに入部し、手話を習い始めた。初めのうちは、手話歌を通じて、一つ一つの単語を習った。手話歌の試合に出たり、演出をしたりしているうちに、引込み思案だった私は自信をもつようになった。

ある日、友達が「中華民国聾人協会」というクラブへ連れて行ってくれた。手話を習って以来、手話の単語はもう足りていると自信を持っていた私にとって、耳が聞こえない人と話すことは簡単だった。クラブへ行く前、私はそう考えていた。しかし、実際には、聾者が言っていることが全くわからなかった私は、穴に入りたいほど恥ずかしかった。「驕傲な人は、きっと負ける。」という

諺を守って、その日から、謙譲の心を持って学ぶようにした。その日は私の人生の分岐点といっても、言い過ぎではない。

そのことをきっかけにして私は、手話ボランティア活動に参加し始めた。また、市政府の労働局で開いた「手話通訳クラス」でも手話を学んだ。週に三回、遠い桃園から、台北まで、バイクでの通学は大変だったが、手話はだんだん上達した。手話が上手になるにしたがって、多くの聾者と友達になった。そのため、「どうしてあげればいいかな。」「耳が聞こえない人にとって、本当に必要なものは何か。」などの問題点をつくづく感じた。そして、ボランティアの友人とそういう気持ちを持って、様々な活動を行った。

例えば、健常者が聾者の生活の中で、不便なところを身を以って体験するための、一泊二日の活動を行った。その一泊二日の間は、一言も話さないようにした。買い物をする時、何か言いたい時は、手振りと身振りを通じて伝えた。生まれて以来初め

て言葉で伝えられないようにした。非常に不便を感じる一方で、社会の人々にどのように注目されているのも、感じてもらった。同情、かわいそう、嫌ね、…様々な表情が人々の顔に見えた。ある店ではお化けを見るような顔をして、似て非なりの私達を追い出した。その時、怒りつつも、一般の人々の体が不自由な人に関する知識が不足しているのが悲しかった。

こういう経験もあり、どんな小さな事でも、耳が聞こえない人を助けてあげようと思った。そして、手話通訳者になった。手話通訳の経験を通して、色々な場面を見た。また、卒業後、聴覚障害者就職サービスに関係する協会に勤めた。

聴覚障害者就職サービスとは何をするところか。その名の示すとおり、耳が聞こえない人に仕事を探し、一緒に面接を受け、そして、三か月その人と一緒に仕事をするのである。失業率が高い台湾では、一般的な大学卒業生も仕事を探しがたいが、聾者にとっては、もっとむずかしい。身体障害者向けの会社はあまりないし、耳が聞こえない人を雇う会社も思ったより少ない。大勢の人々が、「耳が聞こえない人は仕事の邪魔だ。何もできないし…」と言った。しかし、聾者は本当に何もできないのか。そ

のようなことはない。お客の応待はともかくとして、健常者ができることは聾者でもできる。耳が聞こえないので、健常者より集中してする。一般の人々が古い考え方をしているのは、身体障害者にとっては不公平なことだ。

その外、手話通訳制度が不完備なので、聾者はどこへ行っても、コミュニケーションをしがたい。聾者はコミュニケーションがうまくできなかったあげく、一般の人々に誤解されることがますます多くなっていく。そのため、手話通訳が必要になる。残念ながら、社会福祉が発展途上にある台湾では、手話通訳証を持っている正式な手話通訳者は17人しかいない。聾者の数に対して、手話通訳者数は不足している。

手でも、話せるということをもみんな知っているのだろうか。手でも、自分の意志が伝えられる。手でも、ささやける。一緒に手話であなたの手をささやかせてみよう。

プリズムのような留学生生活

刘 程（中国）リュウ テイ

優秀賞（上級）

私は日本へ来てもう半年になりました。留学生として、大阪に住んでいる生活はまるでプリズムのように色とりどりの側面があります。

難しい国立大学をめざしている私は毎日二十四時間では足りないぐらい忙しいです。というのは国立大学だったら日本語だけでなく英語も社会も必要だからです。たいへんだけれども充実した生活を送っています。

留学生活といえばアルバイトが少しできるのが一つの特徴です。今、少しずつ日本語の力をつけつつあり、私も学校の近くにある店でアルバイトをしています。あんまり広くない店で仕事の帰りに来るお客さんが多いです。さいしょは何を聞いてもわからず困っていましたが、だんだん慣れてきてお客さんのニーズにこたえることができるようになりました。店番をしている間に、もし暇だったらお客さんと話すことができます。日本人で中国のことをよく知っている人が多く、びっくりしました。話しているうちに日本語を習う一方で日本人に中国語を教える機会があるのは本当に楽しいものです。店では

店長からお客さんまでみんなが親切にしてくれます。みんなのあたたかさのおかげで私ははずかしい思いもかまわずよく日本語を使い、それで日本の祭りや生活習慣などしっかりわかるようになってきました。

いい経験はそれだけではなく、留学生向けの活動もあるのです。その中でも印象に残っているのは「2006 全国都市緑化大阪フェア」という国際交流の活動に参加した時のことです。

担任の先生を通じて申し込んだこの催しに参加できたのはなんといっても幸せなことです。というのは中国人の代表になり、十か国の留学生たちと一緒に葦で舟を造りながらいい交流ができるからです。その日一日中みんな服が汚れるのもかまわずとても興味を持って熱心に造りました。たしか葦船学校の先生をしていらっしゃる方の指導を受け、ベンチを使ってひもを葦の束の間に差し込んで向こうから引くのです。しかし、そのまま縛った葦の束はぴんと張っていませんでした。頑丈で安全な舟を造るために片側八人ずつの学生た

ちは軍手をはめ、ひもをつかんで力いっぱい反対に引きました。それを何度もくり返してやっとできました。そして船首と船尾を縄で結びました。作業をしている時につい子供のころ綱引きをした時の楽しさを思い出し、懐かしくなりました。舟は「友好の舟」と命名されました。みんなサインした後、舟の完成を祝ってお酒で乾杯しました。気がつくといつの間にか西の空が赤くそまっていました。仲よくなった人と別れざるをえません。「案ずるより産むがやすし」という言葉が示すとおり努力さえすれば最後には成功できます。

留学生にとって自分がどんなことに対してもまじめな態度で接するのは大切なことだと強く思いました。

しかしながら一人での留學生活でとび上がるように喜んでいる時もあるれば顔をそむけて泣く時もあります。とりわけ病気になった時はさびしい思いをしました。その時両親がそばにいてくれたらいいのになと思いました。たしか前回熱があったのは一か月前のことでした。ある日曜日に寮で休んでいながらどうしても国の母に電話をかけてしまいました。けれども母を心配させないように病気についての話にはなにも触れませんでした。その時本当に成長して大人になったような気分になりました。

日本に来て初めて生活の大変さがよくわかりました。両親がきびしいのは子供を深く愛しているからにほかならないということは前は少ししか理解できませんでしたが今はつくづくそう感じます。

来日以来日本語を学んだり各国の留学生たちと友達を作ったりしていましたがいろいろなことはまだ私の記憶に新しいです。プリズムのような色が私の生活を飾り付けてくれます。

理想が近づく、生活の動力がいっぱいある、赤色！

異文化のまざり合う、だいだい色！
一人での生活で単純な太陽を享受する、黄色！

留学生寮のまどの前の木は私にとってはもう生活の一部である、緑色！

まだ成熟してはいないけれども高く未来の空を熱望している、青色！

きれいな空の色のように留学生の生活は清貧でも充実している、藍色

父母の期待と深く思い慕う、紫色！

このようなプリズムの中、大阪を留学生の第二のふるさととしてまたいろんな夢に向かってここで進んでいこう！今、私の心はこういう気持ちでいっぱいです。

海の如く深き愛に

呉 菊华（中国）ゴキクカ

優秀賞（上級）

今日も国の両親からの小包が届きました。いつものように私が大好きなお菓子からカルシウムのカプセルまでそろっていましたが手紙をあけてみると、なんと私が赤ちゃんの頃撮った写真も同封されていました。

昨年、主人の仕事の都合で私は日本に来ることとなり、ずっとそばにいてくれた両親と遠く離れました。そんな遥かに離れるのは生まれて初めてのことです。それだけにますます両親に心配をかけることになってしまいました。その手紙を読むと両親の年取った心細そうな顔が頭に浮かんできて、思わず知らず涙が出てきました。

早産児だった私は月足らずのため体が小さくて生きて育つかどうかさえ疑問だったそうです。父と母は倍の愛情を込めて私をこんなに大きく育ててきました。が、子供の頃の私は、苦勞に耐えて一生懸命養育してくれた父母に感謝することもなく、怠け者で、しかも突っ張っていました。

私が中学一年生の時、台湾の女流作家が自分の中学生の時、当時の担任の先生との初恋の経験をもとにして書いた本「窓外」が少年少女に大人気で

した。読書するのが大好きだった私は友人に頼んでやっとその本を借りました。借りられる期間が限られていたので私は暇さえあれば「窓外」を読み始めました。それは実に見事な小説でした。青春時代にあった私がつい夢中になってしまったのは言うまでもありません。早く読み終わり、首を長くして「窓外」を待っているクラスメートにも読んでほしかった私は、学校の休み時間はもとより、下校後家に帰って宿題をする時間も惜しんで読みふけりました。子供に対するしつけが厳しかった両親に知られては本を没収されるかもしれないと思い、自分の部屋で真面目に学習しているふりをするため「窓外」を教科書の下に隠して一生懸命読んでいました。が、残念なことに、自分のちょっとしたミスが原因で両親に気づかれることとなりました。意外にも私が最も両親に叱られたのは私が隠れてこっそり本を読んだことでした。不誠実な行為は絶対に許されないと父に言われました。

しかし、思春期にあったせいか私と両親との衝突はそれだけに終わりませんでした。中学校を卒業した時、三年

間の同窓生に友情の象徴としてステキな少女人形を贈ってもらいました。私は大切に自分の部屋に飾っておきました。そんなある休日に母の同僚が家を訪ねてきました。そしてあいにくその同僚は自分の幼い娘さんも連れてきました。その娘さんは幼いとはいえ、目が利くのでした。私が大切にしてきた人形を見られ、気に入られてしまったのです。父はそれをあげなくては顔が立たないとでも思ったのか、私の同意なしに勝手に私の人形をその子にプレゼントしました。外出していた私は母から聞いて早速大事な人形を置いた所に行くと既になくなっていました。もうどうしようもありませんでした。一瞬、父への恨みが心の中で膨張し、父に「パパ、大嫌い！」と叫んで部屋に閉じこもりました。涙が止まらずだれがドアを叩いても相手にはしませんでした。

翌日、朝食もとらず、黙って学校に行きました。同様にして過ぎていった三日目の放課後、いつものようにうちへ帰ってだれひとりとも話さないで自分の部屋に入りました。信じられないことが起こりました。人形、その友達からの贈り物が、帰って来ていたのです。よく見ると、人形のそばに手紙がありました。それは父がわざわざ買ってきた人形でした。父は手紙に「原品ではないが許してくれない

か？」と書いていました。その瞬間、私の目から涙があふれました。そんなに大した問題じゃないのに堂堂たる医者である父親が娘の私に謝罪するなんて全く思いも寄りませんでした。親不孝極まりないと私は悟り、後悔の念を禁じ得ませんでした。

そんなに反抗してきた娘でも私に対する両親の愛情はちっとも変わっていないのです。高校二年生の時原因不明の病気で夏休みにずっと寝こんでいた私を、仕事もせず、細心の注意で面倒見てくれた母の姿、いても立ってもいられないほど心配そうな父の顔、苦勞で増えてきた二人の白髪……走馬灯のように目の前に浮かんできます。しかも、大人になったとはいえ私は今でも両親に心配をかけ続けているのです。海の如く深い恩情に対して今異国にいる私はどう応えればいいのか――。

娘が日本にいることから日中関係への関心が高まり、日中友好を絶えず祈っている両親に少しでも安心してもらえるようにするため、私は日中友好の道を志します。精一杯日本語を勉強し、日中両国に関わる仕事をし、お互いに理解しあえるよう、私なりに力を尽くします。小包の中身を見ながらそう決心しました。

講評

審査委員長 林 成志

本作文コンクールも今年で13回目を迎えます。今回も世界31カ国の留学生から初級65点、中級50点、上級54点、合計169点の応募をいただき、審査員一同、嬉しい悲鳴を上げながらの選考となりました。

今、世界ではイラク問題、イスラエル対ヒズボラ、ハマスの戦争、英国では大規模テロ未遂、隣国によるミサイル発射、地球温暖化による環境破壊…等々、有史以来数千年の歴史の中で人類はいったい何を学んできたのでしょうか。又、国内に目を向ければ親が子を殺し、子が親を殺す。到底常識では考えられない事件が多発しています。

今から数年前、偶然にも初めて作文コンクールの原稿を読ませてもらったときの驚きが今でも忘れられません。誤字が多く、違和感を覚える文章でしたが、後でその作文が日本に来て数ヶ月の学生によって書かれたと聞かされ、大いに驚き、感心させられたものでした。

今回、改めて審査を担当し、そのレベルの高さと青年らしい素直な気持で生活習慣の違いや、親や友人に対する愛情、留学先日本でのとまどい、などがつづられ、混沌とした世界情勢、殺伐とした社会にあって将来の夢と希望に向かって進んでいく若人の熱意が伝わる力作ぞろいでした。

審査方法

初級、中級、上級の部で当委員会の委員が責任者となり、審査員にはそれぞれの部で30才代、50才代、70才代（上級においては50才代、60才代、70才代）の会員を選任しました。

各級とも審査員の評価点を合計して上位3名の高得点者を入賞者としましたが、結果は各級それぞれ高得点が数作品に集中することになり、世代を越えて「人の心を打つものは同じ」と感じさせられ興味深いものとなりました。

初級の部

最優秀賞－「経済の発展及び問題」

初級審査員の全員が評価した作品で、環境問題を真剣に考えている力作でした。わが国でも過去、経済活動優先で多くの環境破壊や公害問題を引き起こしてきました。中国においても今後、ますます深刻化するであろうこの問題を専門に研究し、解決するための勉強をされる決意が伝わってきました。

優秀賞－「お風呂屋さん」

高得点ながら評価の分かれた作品でした。韓国と日本の「お風呂屋さん」内での習慣の違いを述べている作品ですが、筆者の若さから来る初々しさも感じられ温かみのある作品でした。

優秀賞－「日本語の勉強」

フィリピンの留学生からの応募作品です。日本に来てまだ数ヶ月(?)しか経っていないのでしょうか。一生懸命勉学に励む姿がよく現れています。留学先で一番大事なこと、「いい先生といい友達」それさえあれば頑張れる…。それを得られることは人生最大の喜びの一つです。古今東西、全世界共通ですね。

特別賞は該当する作品がありませんでした。

中級の部

最優秀賞－「日本に来て失って

よかったもの？」

4人の審査員が全員評価した作品でした。自分の気持が実に素直に表現されて読む人の心をつかみます。「災い転じて福となす」突然の事故でしたが、姉やクラスメートに励まされて今までの自分から脱皮していく姿がよく表されている作品でした。

優秀賞－「日本人と時間」

最優秀賞と同じく4人の審査員全員が評価した作品でした。文章の読み易さと内容の総合力は非常に高く、表面的な事象だけで判断するのではなく「なぜ、そうなのか」「だから、こうなった」というレベルまで自分の意見が述べられており感心させられました。

優秀賞－「外国人の目に映った日本」

思いやりの心、道徳心、礼節…日本人が昔から育んできた心情です。最近はこの希薄化に心を痛めている人も多いのが現状です。幸いにも筆者は色々な場面で心優しい日本人と出会ったようです。我々にとっ

でも警鐘となる作品でした。

特別賞は該当する作品がありませんでした。

上級の部

最優秀賞－「ささやいている手」

まず、本人の手話通訳のボランティアそのものが素晴らしい行動です。手話に魅せられ、自分の一生をそれに打ち込む姿に感動しました。文章も起承転結があり、読み易く、話の流れ、内容も良く、読む人を考えさせる点で、4人すべての審査員より高い評価を得ました。

優秀賞－「プリズムのような 留学生活」

留学生の誰もが経験するその喜びや苦勞、さまざまな想いを七色のプリズムとして例えているそのセンスが新鮮でした。又、文字の正確さ、美しさには目を見張るものがありました。

優秀賞－「海の如く深き愛に」

昨年に引き続き二度目の挑戦ですが、筆者の青春時代の両親との葛藤を思い返しつつ、異国にあって両親の愛情に感謝している内容は、読む者に親子の情愛を感じさせます。

特別賞は該当する作品がありませんでした。

以上が入賞された作品に関する感想でしたが、選外の作品の中にも素晴らしい作品が多数ありました。次回に再挑戦されることを期待します。

最後に応募された留学生の全員に心からの謝意を表します。又、作文提出のための労をお取りいただきました大阪日本語教育センターの先生方に感謝を申し上げます。本当に有難うございました。

**第13回 日本語作文コンクール
審査委員会**

**大阪鶴見ロータリークラブ
国際交流基金運営委員会**

(2006 ~ 2007)

審査委員長 林 成 志

委員長 林 成 志

初級担当委員

副委員長 佐 藤 俊 一

(責任者)

田 中 英 司
井 上 綾
菊 井 康 夫
高 橋 正 明

委 員 発 剛 士

田 中 英 司

中級担当委員

(注記)

(責任者)

発 剛 士
山 本 隆 一
秀 島 博 規
平 林 昇

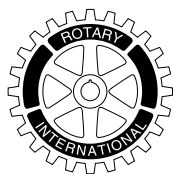
この冊子をまとめるにあたり、原作品は縦書であるのを横書きとしました。このため漢数字などもそのままになっています。また、日本語の表記能力も審査の対象となっているため、できる限り原作品の表記のままとしました。

上級担当委員

(責任者)

佐 藤 俊 一
桐 山 裕 二
田 中 信 明
堤 之 柳 太郎

禁・無断転載（転載ご希望の向きは下記にご連絡下さい）



**大阪鶴見ロータリークラブ
国際交流基金運営委員会**

〒 534-0026 大阪府大阪市都島区網島町 9-10 太閤園内
電話 06-6357-8171 FAX 06-6357-8011